

(様式)

常任委員会行政視察報告書

委員会名	経済建設常任委員会	委員名	駒木 おさみ
視察地	島根県出雲市		
調査事項	出雲農業未来の懸け橋事業及び新出雲農業チャレンジ事業について		
視察年月日	令和7年11月19日		
視察内容	<p>出雲農業未来の懸け橋事業及び新出雲農業チャレンジ事業について 説明担当者：農林水産部農業振興課 令和7年11月19日(水)</p> <p>出雲市は人口約17万人を擁し、県内随一の農業地帯であり、総合振興計画「出雲新話2030」に基づき農業分野の持続的発展を目指している。旭川市も「上川百万石」と称される豊かな農業基盤を有しており、両市の比較は今後の農業政策検討に資するものである。</p> <p>出雲市の農業は、デラウェアぶどうの国内有数産地をはじめ、柿、いちじく、神在ねぎ、西浜いもなど地域特産品が多様である。①中山間地域の省力化支援を特徴とする「新出雲農業チャレンジ事業」（令和7年度予算2500万円）、②担い手育成・新規就農者支援、③モデル的・先駆的取組やスマート農業推進事業が展開されている。具体的には、ハウスモニタリングと自動換気システム、RTK-GPSやドローン防除の導入、環境負荷低減技術の実証などが進められている。3年間で30件以上の申請、4億円規模の補助実績があり、政策的課題解決に一定の成果を上げている。</p> <p>斐川地域では昭和50年代から水田整備を進め、パイプライン整備率76%に達している。農業公社による地図システムを活用した農地集積は10年以上継続され、標準貸借料の設定や担い手が病気等で離農した際の支援も行われている。麦作は減少傾向にあるが、大麦についてはキリンビールとの協定により産地維持を図っている。園芸品目では北海道に比肩することは難しいが、斐川地域ではたまねぎやキャベツの生産が行われている。</p> <p>出雲市の課題は担い手の高齢化、小規模家族経営の維持、中山間地域の農業対策である。スマート農業や環境技術の導入により省力化と持続可能性を確保しようとしているが、農業情勢の変化に応じた柔軟な事業メニューが求められる。物価高騰対策としては、草刈り機導入に対し50万円以上の機器に補助を行い、120件の実績を有する。さらに、ふるさと納税や一般財源を目的別に活用し、農業振興区制度による座談会やアンケート回収率90%以上の市民参加型の仕組みも整備されている。他に国の特別天然記念物であるトキの分散飼育センターを設置し、保護増殖にも取り組んでいる点は特徴的である。</p> <p>旭川市では離農率35%という厳しい現状があり、担い手確保と農地集積の推進が急務である。出雲市のように農業公社を活用した地図情報システムによる農地流動化や、モデル的なスマート農業導入事例は参考となる。特にドローンによる直播きや防除、人工衛星とAIを活用した栄養診断・可変施肥の仕組みは、旭川の広大な農地に適用可能性が高い。直播きや多収性品種「つや姫」「きぬむすめ」米が進んでいる。</p> <p>総じて、出雲市の農業施策は担い手育成、省力化技術、環境負荷低減の三本柱で構成され、政策的課題解決に一定の成果を挙げている。旭川市においても、担い手支援の拡充が必要。</p>		

(様式)

常任委員会行政視察報告書

委員会名	経済建設常任委員会	委員名	駒木 おさみ
視察地	鳥取県鳥取市		
調査事項	鳥取市民体育館エネトピアアリーナについて		
視察年月日	令和7年11月20日		
視察内容	<p>鳥取市民体育館エネトピアアリーナについて 説明担当者：教育委員会事務局生涯学習・スポーツ課 令和7年11月20日(木)</p> <p>鳥取市民体育館「エネトピアアリーナ」は、令和2年にPFI方式で整備された最新型の市民体育館であり、スポーツ振興、防災拠点、地域交流の三位一体を実現する施設として全国的にも注目されています。総事業費は約49億円に達し、旧体育館の解体費用約1億3千万円を含めて、市民の安全性と利便性を高めるために大規模な再整備が行われました。整備の背景には、平成22年に耐震性能の不足が指摘されたことや、人口減少に伴う公共施設更新の課題があり、平成28年に再整備方針が提言され、平成30年に基本計画が策定されました。その後、平成30年にはサウンディング型市場調査を実施し、民間事業者との対話を重ねて透明性を確保。令和2年1月には「PFI鳥取市民体育館株式会社」が設立され、ミズノを含む民間事業者が運営に参画しています。</p> <p>施設構成は、バスケットボールやバレーボール、卓球、バドミントンなど多様な競技に対応可能なメインアリーナとサブアリーナ、トレーニングルーム、会議室、研修室などを備えています。観客席には車椅子用スペースを設けるなどユニバーサルデザインを重視し、誰もが安心して利用できる環境を整えています。さらに、ピロティ部分を嵩上げ構造とし、浸水対策を兼ねてフットサル場やスケートボード場を配置するなど、防災とスポーツの両立を図っている点が大きな特徴です。マンホールトイレ、防災用コンセント、備蓄倉庫も整備され、災害時には避難所として活用できる防災拠点機能を持ちます。</p> <p>基本コンセプトは「市民がスポーツに親しむ」「見るよりするスポーツ」「賑わいの創出」「防災拠点の強化」の4つ。市民が気軽にスポーツを楽しめる環境を整えるとともに、地域の賑わいを生み出す拠点としての役割を担っています。利用料金は競技場面積や利用時間に応じて設定され、トレーニングルームは個人利用も可能。年間を通じて団体利用と個人利用がバランスよく行われており、スポーツ合宿や大会誘致にも積極的です。ミズノ契約選手によるイベントも開催され、小中学生を対象とした交流事業は市民に喜ばれています。</p> <p>また、省エネ・環境面にも配慮し、LED照明や効率的空調を導入。再生可能エネルギーの活用やゼロカーボン化への取り組みも進められています。スポーツ以外の用途としては、コンサートや展示会、地域イベントなど多目的に活用され、地域経済や観光との連携も視野に入れています。さらに、予約システムや入退館管理、混雑状況の見える化などICTを活用した運営も行われていますが、利用者のデジタルリテラシー格差が課題となっています。</p> <p>エネトピアアリーナは「スポーツ・防災・交流」を三位一体で実現する市民体育館であり、PFI方式による民間連携の成功例として全国的にも注目されています。旭川市のアリーナ構想においても、都市公園においても、積雪地対応型スケートボードパークや屋内型多目的広場を組み込むことで、冬季の市民活動を支える拠点づくりに活かせる示唆を与える事例でした。</p>		

(様式)

常任委員会行政視察報告書

委員会名	経済建設常任委員会	委員名	駒木 おさみ
視察地	大阪府高槻市		
調査事項	安満遺跡公園について		
視察年月日	令和7年11月21日		
視察内容	<p>【視察会場:安満遺跡公園、ボーンランド park center内「工作・調理室」】 説明担当者:街にぎわい部歴史にぎわい推進課 令和7年11月21日(金)</p> <p>高槻市街にぎわい部歴史にぎわい推進課から説明を受け公園内を視察。高槻市は人口約35万人を擁する関西中央都市であり、歴史資源と都市機能を融合させた特色あるまちづくりを進めている。その象徴的事業が、古代の高槻遺跡を基盤に整備された安満遺跡公園である。</p> <p>安満遺跡公園は2021年3月に全面開園し、「高槻のセントラルパーク」と位置づけられている。今城塚古墳や芥川城跡、摂津峡公園など既存の史跡・自然資源と連動し、年間400件を超えるイベントを展開している点が特徴である。ダンスやスポーツ、ハンドメイド体験など多様な市民参加型企画が実施され、文化・歴史・レクリエーションを横断する都市公園として機能している。</p> <p>設置に至る過程では、公募市民によるワークショップが重視され、5つの目標像が共有された。市民合意に際して大きな反対はなく、むしろ「誇り」「プライド」として受け止められたことが印象的である。市長自身が歴史を大切にする姿勢を持ち、行政と市民が同じ方向を向いたことが円滑な合意形成につながった。</p> <p>公園区域は、防災公園街区整備事業（UR）、史跡事業（市文化財部局）、雨水貯留施設の3要素で構成される。整備費総額は約220億円で、その5割を国費が担った。指定管理者制度を導入し、年間約2億円規模での運営が行われている。さらにネーミングライツ制度を活用し、5年間で約2,000万円の収入を確保するなど、財源の多様化が進められている。</p> <p>「市民とともに育てる公園」という理念のもと、ベンチ設置や樹木植栽に市民・企業の寄附を反映させている。100基のベンチや記念プレート、樹木の植栽、さらにはどんぐり苗木や梨の原木など、参加型の緑化活動が展開されている。これにより公園は公共施設ではなく、市民の思いが刻まれる「共有財産」として育まれている。</p> <p>課題としては、サッカー場などスポーツ施設のさらなる充実、市民要望に応じた柔軟なイベント企画が挙げられる。行政主導では硬直化しやすいとの指摘もあり、完全民営化や指定管理者の創意工夫に期待が寄せられている。</p> <p>旭川市においても、この事例から多様な層の意見を反映することで「誰もが誇れる公園」を形成できる。次に、ネーミングライツや寄附参加型整備を導入し、維持管理費を補う仕組みを構築することに検討の余地があるのではと思います。旭川ならではの文化・自然資源を活かした年間プログラムを展開すれば、市民と観光客双方を惹きつける公園となるかもしれない。加えて、豪雪や洪水リスクを踏まえた防災機能を組み込むことで、安全性と魅力を兼ね備えた公共空間を整備できる。歴史・文化・防災・市民参加を融合させた公園整備の先進事例を確認できました。旭川市においても未来に誇れる公共空間づくりを進めることを期待したい。</p>		